［書式１］

平成２２年３月３１日

平成２１年度実施　地域ＩＣＴ利活用モデル構築事業　成果報告書

実施団体名　青森県弘前市

事業名称　快適でふれあいのある雪国生活の実現モデル事業

１．事業実施概要

・交差点や道路など、街中の主要箇所にあるカメラ及び気象センサーから、市民に携帯電話やパソコン、情報配信ディスプレイをとおして、積雪量、気温、雨量、現在の道路状況画像などを配信する。
・その日の除雪車の出動状況を、携帯電話やパソコンに配信する
・除排雪に関して、電話以外の住民からの情報提供として、携帯電話端末のメール機能を利用し、除雪状態・危険箇所の情報を提供してもらう。
・雪が原因で起こるバスの遅延情報をパソコン、携帯電話、情報配信ディスプレイに配信する。
・副次的利用として、上記カメラ及び情報提供の仕組みを利用し、渋滞情報や観光情報の配信に活用する。また、バス停の周辺情報を配信し、観光や買い物の利便性を高める。

２．目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
①ｼｽﾃﾑ参加者数	①600 名	①559 名	①△	①ｱｸｾｽ統計ｼｽﾃﾑ
②	②	②	②	②
a)除排雪関連 HP 閲覧数	a)180,000	a)579,891	a)○	a)HP アクセス数
b)除排雪,観光利用ｶﾒﾗ閲覧数	b)日平均 1,500	b)1,597	b)○	b)ｱｸｾｽ統計ｼｽﾃﾑ
③バス遅延情報 HP 閲覧数	③10,000	③42,803	③○	③HP アクセス数
④	④	④	④○	④
a)冬季間の生活不満足度	a)50%以下	a)54.4%	a)△	a)利用者アンケート
b)道路除排雪の不満足度	b)50%以下	b)52.3%	b)△	b)利用者アンケート

３．達成状況が△又は×の場合はその理由

システム参加集数については、周知不足が原因で若干目標値に及ばなかった。しかし、アンケート結果から、口コミで紹介しているケースも多く、徐々にではあるが浸透していると感じられる。今後は、様々な場面で周知を行い、利用者拡大を図りたい。

今年度は、この事業を始めた３年間の中で最も雪が多く、市民のストレスがたまりやすい状況となり、不満足度も高かった。システムの活用も含めた事務改善を図る必要があると認識した。

＜委託業務説明書＞

１　平成２１年度事業実施において明らかとなった課題

弘前市では、これまでに構築したシステムについて、利用者アンケートを行い、意見・要望を取り纏めた。その中から、次のとおり課題が判明した。

※詳細は別添「成果報告書補足資料」の「平成２１年度弘前市地域ＩＣＴ利活用モデル構築事業利用者アンケート」参照

ア）気象情報システム

・除排雪、積雪量などのメールの登録がいまいちわかりにくく、夜中、一時間おきに朝までメールがきたときがあって辛かったので、その辺改善してほしいと思います。

→　利用者が望む配信時間、配信方法の検討を行う。

・気象の警報・注意報の情報も盛り込んで欲しい。

→　複合的な情報配信方法の検討を行う。

イ）除雪情報システム

・メール配信の時間と実際の除雪時間がちがうので、あてにしてるだけに困る。

→　メールを配信する時間は、実際に除雪車が出動する時間であり、そこまでピンポイントの情報提供は GPS 機能を使うしかないので、実現化は難しいと思われるが、タイムリーな情報提供については今後検討していく必要がある。

・どこの会社が各地区の何丁目なのかなど、細かい場所をシステム上可能なら表示してほしいです。

→　地図を利用した表示方法など、より判り易く詳細な情報提供を図る必要がある。

２　自律的・継続的運営の見込み

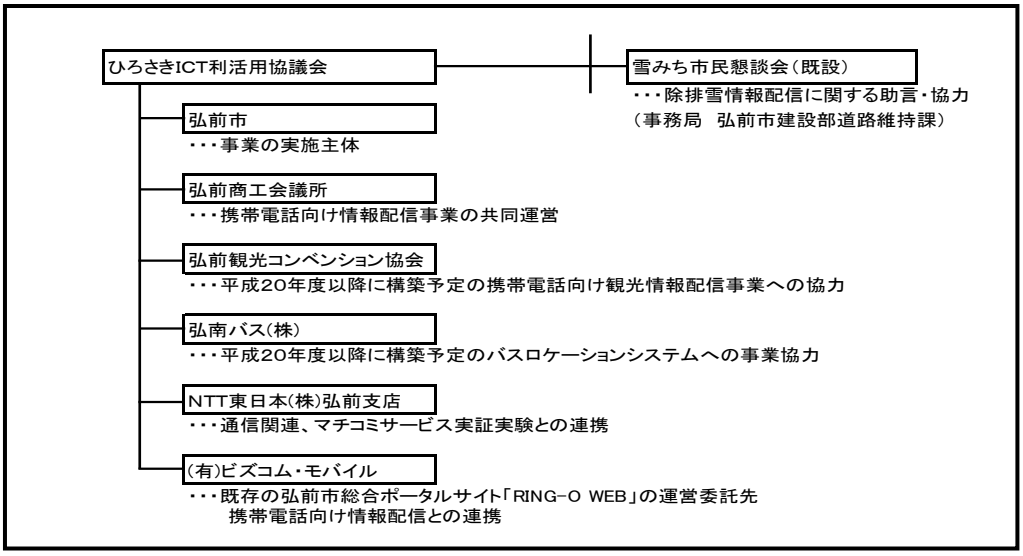
平成２２年度以降は、運営体制や運営手法について、ＮＰＯを含めた民間委託なども検討し、システムの多角的利用を図る。

３　今後の展開方針

システムの周知拡大、副次的な利用展開、簡易で判り易い情報提供を図り、自立運営を視野にいれ、関係機関と協議を深めながら、事業の継続的展開のあり方を探っていく。

＜実施体制説明書＞

1　実施体制



2　各主体の役割

NO	氏名・団体名	役　　割
1	弘前市	事業の実施主体
2	雪みち市民懇談会	除排雪情報配信に関する助言・協力
3	弘前商工会議所	携帯電話向け情報配信事業の共同運営
4	弘前観光ｺﾝﾍﾞﾝｼｮﾝ協会	携帯電話向け観光情報配信事業への協力
5	弘南バス（株）	成２０年度構築のバス遅延情報お知らせシステムへの事業協力
6	ＮＴＴ東日本（株） 弘前支店	通信関連、国・県主催の実証実験との連携
7	(有)ﾋﾞｽﾞｺﾑ・ﾓﾊﾞｲﾙ	既存の弘前市総合ポータルサイト「Ｒｉｎｇ－ＯＷｅｂ」の運営委託先。携帯電話向け情報配信との連携。

事業実施進行表

実施内容	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H22 1 月	2 月	3 月
協議会等開催				△		△			
システム稼働	→	→	→	→	→	→	→	→	→
アンケート調査・集計・分析									→
報告書作成									→

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

［1］ http://www.ict-hirosaki.jp/portal/ ［ポータルサイト］

［2］ http://www.ict-hirosaki.jp/portal/mobile ［携帯電話版］

概　要

［書式２］

平成２２年３月３１日

平成２１年度実施　地域ＩＣＴ利活用モデル構築事業　システム設計書

実施団体名：青森県弘前市

代表団体名：

事業名称：快適でふれあいのある雪国生活の実現モデル事業

１　概要

・交差点や道路など、街中の主要箇所にカメラ及び気象センサーから、市民に携帯電話やパソコン、情報配信ディスプレイをとおして、積雪量、気温、雨量、現在の道路状況画像などを配信する。
・その日の除雪車の出動状況を、携帯電話やパソコンに配信する
・除排雪に関して、電話以外の住民からの情報提供として、携帯電話端末のメール機能を利用し、除雪状態・危険箇所の情報を提供してもらう。
・雪が原因で起こるバスの遅延情報をパソコン、携帯電話、情報配信ディスプレイに配信する。
・副次的利用として、上記カメラ及び情報提供の仕組みを利用し、渋滞情報や観光情報の配信に活用する。また、バス停の周辺情報を配信し、観光や買い物の利便性を高める。

２　運用結果

気象情報・除雪情報システムアクセス数　579,891
訪問者数　383,063
バスまちシステムアクセス数　42,803
訪問者数　39,176

３　課題・改修の必要性

・除雪情報システム

今冬は雪が多く、システムそのものより、徐排雪に関する具体的な指摘が多かった。システムを更に便利なものに改善することは勿論であるが、徐排雪方法の検討など今後の課題となっている。

・気象情報システム

ライブカメラ及び気象観測点を増やしてもっと決め細やかな情報を望む声が多かった。国交省や道路管理事務所のカメラとネットワークでリンクして活用できないかという提案もあった。

・バスまちシステム

遅れ情報の路線数を増やすこと。

４　その他

利用者拡大に向け、よりいっそうのシステムの周知拡大に努める。